

様式第1

ばい煙発生施設設置(使用、変更)届出書

平成28年3月1日

(あて先) 横須賀市長

氏名又は名称及び住所並びに法

株式会社 横須賀

神奈川県横須賀市小川町11番地

届出者 人にあるはその代表者の氏名

代表取締役社長 横須賀 太郎

大気汚染防止法第6条第1項(第7条第1項、第8条第1項)の規定により、ばい煙発生施設について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称	横須賀庁舎	※整理番号	
工場又は事業場の所在地	小川町11番地	※受理年月日	年 月 日
ばい煙発生施設の種別	1項 ボイラー2基	※施設番号	
ばい煙発生施設の構造	別紙1のとおり。	※審査結果	
ばい煙発生施設の使用の方法	別紙2のとおり。	※備考	
ばい煙の処理の方法	別紙3のとおり。		

- 備考 1 ばい煙発生施設の種類の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1に掲げる項番号及び名称を記載すること。
- 2 ※印の欄には、記載しないこと。
- 3 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
- 4 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格A4とすること。

連絡先	総務部 総務課 庁舎管理係
	担当者氏名 横須賀 一郎 電話番号 000-000-0000 (内線)000

ばい煙発生施設の構造

工場又は事業場における施設番号		No. 1	No. 2
名称及び型式		冷温水発生機	冷温水発生機
設置年月日		年月日	年月日
着手予定年月日		平成28年6月10日	平成28年6月10日
使用開始予定年月日		平成28年7月1日	平成28年7月1日
規模	伝熱面積 (m ²)	20.4 m ²	20.4 m ²
	燃料の燃焼能力 (重油L/h)	100m ³ N/h(62.5 L/h)	100m ³ N/h(62.5L/h)
	原料の処理能力 (t / h)		
	火格子面積又は羽口面断面積 (m ²)		
	変圧器の定格容量 (K V A)		
	触媒に付着する炭素の燃焼能力 (k g / h)		
	焼却能力 (k g / h)		
	乾燥施設の容量 (m ³)		
	電流容量 (K A)		
	ポンプの動力 (K W)		
合成・漂白・濃縮能力 (k g / h)			

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 規模の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1の中欄に掲げる施設の当該下欄に規定する項目について記載すること。
- 3 ばい煙発生施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本産業規格A4の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。

ばい煙発生施設の使用の方法

工場又は事業場における施設番号		No.1		No.2	
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	9時～18時 9時間/回 1回/日 20日/月		9時～18時 9時間/回 1回/日 20日/月	
	季節変動	なし(冷暖房用)		なし(冷暖房用)	
原材料 (ばい煙の発生に影響のあるものに限る。)	種類				
	使用割合				
	原材料中の成分割合(%)	いおう分 カドミウム分	鉛分 弗素分	いおう分 カドミウム分	鉛分 弗素分
	1日の使用量				
燃料又は電力	種類	都市ガス		都市ガス	
	燃料中の成分割合(%)	灰分	0	灰分	0
		いおう分	0	いおう分	0
		窒素分	0	窒素分	0
	発熱量	45,000KJ/m ³ N		45,000KJ/m ³ N	
	通常の使用量	70m ³ N/h		70m ³ N/h	
混焼割合	100%		100%		
排出ガス量(Nm ³ /h)	湿り	最大 1122	通常 722	最大 1122	通常 722
	乾き	最大 1011	通常 580	最大 1011	通常 580
排出ガス温度(℃)		100		100	
排出ガス中の酸素濃度(%)		5.0		5.0	
ばい煙の濃度	ばいじん(g/Nm ³)	最大 0.01 通常 0.01		最大 0.01 通常 0.01	
	いおう酸化物(容量比 ppm)	最大 0 通常 0		最大 0 通常 0	
	カドミウム及びその化合物(mg/Nm ³)	最大 通常		最大 通常	
	塩素(mg/Nm ³)	最大 通常		最大 通常	
	塩化水素(mg/Nm ³)	最大 通常		最大 通常	
	弗素、弗化水素及び弗化珪素(mg/Nm ³)	最大 通常		最大 通常	
	鉛及びその化合物(mg/Nm ³)	最大 通常		最大 通常	
窒素酸化物(容量比 ppm)	最大 45 通常 45		最大 45 通常 45		
ばい煙量	いおう酸化物(Nm ³ /h)	最大 0 通常 0		最大 0 通常 0	
参考事項					

- 備考 1 原材料中の成分割合(%)の欄及び燃料中の成分割合(%)の欄の記載にあたっては、重量比%又は容量比%の別を明らかにすること。
- 2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 3 ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。
- 4 参考事項の欄には、ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設についての一工程中の排出量の変動の状況、窒素酸化物の発生抑制のために採っている方法等を記載するほか、ガスタービン、ディーゼル機関、ガス機関又はガソリン機関については、常用又は非常用(専ら非常時において用いられるものをいう。)の別を明らかにすること。

標準酸素濃度で換算した値

ばい煙の処理の方法

ばい煙処理施設の工場又は事業場における施設番号		煙突	煙突									
処理に係るばい煙発生施設の工場又は事業場における施設番号		No. 1	No. 2									
ばい煙処理施設の種類、名称及び型式		煙突	煙突									
設置年月日		年 月 日	年 月 日									
着手予定年月日		平成 28 年 6 月 10 日	平成 28 年 6 月 10 日									
使用開始予定年月日		平成 28 年 7 月 1 日	平成 28 年 7 月 1 日									
処理能力	排出ガス量 (Nm ³ /h)	最大	煙突のみの場合記入不要									
		通常										
	排出ガス温度 (℃)	処理前		煙突のみの場合記入不要								
		処理後										
	ばいじん (g/Nm ³)	処理前			煙突のみの場合記入不要							
		処理後										
	いおう酸化物 (容量比 ppm)	処理前				煙突のみの場合記入不要						
		処理後										
	カドミウム及びその化合物 (mg/Nm ³)	処理前					煙突のみの場合記入不要					
		処理後										
	塩素 (mg/Nm ³)	処理前						煙突のみの場合記入不要				
		処理後										
	塩化水素 (mg/Nm ³)	処理前							煙突のみの場合記入不要			
		処理後										
	弗素、弗化水素及び弗化珪素 (mg/Nm ³)	処理前								煙突のみの場合記入不要		
		処理後										
	鉛及びその化合物 (mg/Nm ³)	処理前									煙突のみの場合記入不要	
		処理後										
	窒素酸化物 (容量比 ppm)	処理前										煙突のみの場合記入不要
		処理後										
ばい煙量	最大	煙突のみの場合記入不要										
	通常											
捕集効率 (%)	ばいじん		煙突のみの場合記入不要									
	いおう酸化物											
	カドミウム及びその化合物											
	塩素											
	塩化水素											
	弗素、弗化水素及び弗化珪素											
	鉛及びその化合物											
	窒素酸化物											
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等			9時 ~ 18時 9時間/回 1回/日 20日/月	9時 ~ 18時 9時間/回 1回/日 20日/月							
	季節変動			なし	なし							
排出口の実高さ H _o (m)				30.0	30.0							
補正された排出口の高さ H _e (m)				30.249	30.249							
排出速度 (m/s)				0.23	0.23							

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 3 補正された排出口の高さH_eは、大気汚染防止法施行規則第3条第2項の算式により算定すること。
- 4 ばい煙処理施設の構造図とその主要寸法を記入した概要図を添附すること。

拡 散 計 算 書

工場名 横須賀庁舎 所在地 小川町11番地
 施設名 冷温水発生機 (工場内の施設番号 No. 1、2)

1 施設能力 (設備能力)

燃料使用量	62.5	L/h	排ガス温度(T)	100	℃
燃料中のS分	0	%	排ガス速度(V)	0.23	m/s
排ガス量(Q')	1122	m ³ N/h	実煙突高(H _o)	30.0	m
排ガス量(Q)	0.328	m ³ /s	SO ₂ 排出量(q ₂)	0	m ³ N/h
$Q = \frac{Q'}{3600} \times \frac{288}{273} \quad (15^\circ\text{Cのとき})$			$q_2 = \text{燃料使用量(1/h)} \times \frac{\text{S\%}}{100} \times 0.7 \times 0.9$		

2 有効煙突高 (H_e)

$$H_e = H_o + 0.65(H_m + H_t)$$

H_m は、排ガス速度による煙の上昇高さ・m

H_t は、排ガス温度による煙の上昇高さ・m

(1) H_m の計算

$$H_m = \frac{0.795\sqrt{QV}}{1 + \frac{2.58}{V}} \quad \sqrt{QV} = \frac{2.58}{V} = 0.01787$$

(2) H_t の計算

$$H_t = 2.01 \times 10^{-3} \cdot Q \cdot (T - 288) \cdot \left(2.3 \log J + \frac{1}{J} - 1\right) = 0.36654$$

$$J = \frac{1}{\frac{\sqrt{QV}}{V}} \left(1460 - 296 \times \frac{V}{T - 288}\right) + 1$$

$$\frac{1}{T - 288} = 2.3 \log J + \frac{1}{J} - 1 = \frac{1}{J}$$

(3) H_e の計算

$$H_e = H_o + 0.65(H_m + H_t) = 30.249 \quad H_e^2 = 915$$

3 いおう酸化物(SO₂)量の排出基準 (q)

(q は、0℃ 1気圧の状態に換算したSO₂の1時間の排出量の基準)

$$q \text{ (m}^3\text{N/h)} = K \times 10^{-3} H_e^2 = \frac{K \times H_e^2}{1,000} = \frac{1.17 \times 915}{1,000} = 1.07$$

◎ q₂ ≤ q でなければならない。

(参考)

SO₂着地濃度 (1時間の着地濃度・C_{1h}の基準)

$$C_{\max} \text{ (ppm)} = \frac{11.41 \times q_2}{H_e^2} = \frac{11.41 \times 0}{915} = 0$$

$$C_{1h} \text{ (ppm)} = C_{\max} \times 0.15 = 0$$

(C_{max} は、3分間着地濃度)

(C_{1h} は、1時間着地濃度)

<添付書類>

ばい煙発生施設

1	ばい煙発生施設を設置する事業所の場所がわかる地図
2	ばい煙発生施設、煙道、煙突がわかる図面
3	ばい煙発生施設の配置図（平面図、立面図） 対象施設はカラーペン等で明らかにする
4	ばい煙発生施設の構造図（測定口の位置が確認できる図面）
5	ばい煙発生施設の規模要件が確認できる図面又はカタログ等 （バーナーの燃料の燃焼能力、伝熱面積、変圧器の定格容量等）
6	煙突の構造図（排出口の地上からの高さ及び内径がわかる図面）
7	排出ばい煙濃度の保証書 （窒素酸化物、硫黄酸化物、ばいじん等の排出ばい煙の濃度に関するメーカーの保証書）
8	燃料成分表

ばい煙処理施設

1	処理系統図
2	ばい煙処理施設の配置図（平面図、立面図）
3	ばい煙処理施設の構造図
4	ばい煙処理施設の仕様書、計算書、カタログ等

<提出書類>

提出部数	正・副 合計 2 部
------	------------